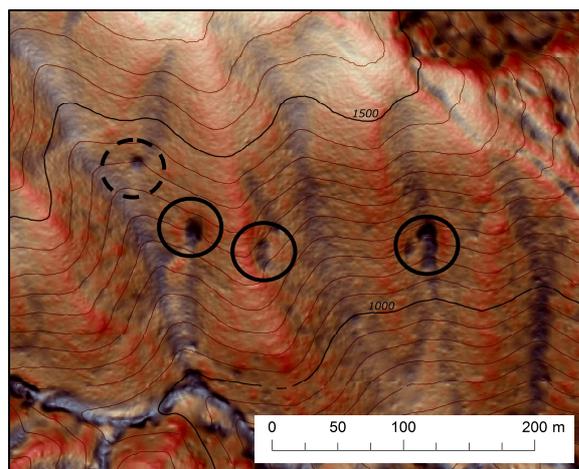


## 地形判読を容易にする立体図法（CS立体図）

- 地形判読を容易にする立体図法としてCS立体図を開発した。
- 航空レーザ測量による細密な数値地形モデル（DEM）を用いて作製したCS立体図は微地形判読に適する。
- 長野県民有林全域のCS立体図を作製した。
- CS立体図は森林政策課森林計画係により長野県情報資産として管理。

### 概要

従来の等高線による地形図を用いた地形判読には経験や高度な知識が必要であり、判読の初心者には難しかった。そこで、地形判読を容易にする立体図法としてCS立体図を開発しました。「CS」とは曲率（Curvature）と傾斜（Slope）の頭文字を意味します。数値地形モデル（DEM）から得られる標高、傾斜、曲率に異なる色調で着色し、重ねて透過処理することで、直観的に立体を認識できる図を作製しました。一方で、近年の航空レーザ測量技術の発達により、樹木下の地表の形状を上空から正確に測量することが可能になりました。航空レーザ測量による細密なDEMを用いたCS立体図では、湧水や崩壊跡地形など、従来の地形図では判読が難しかった微地形を判読できるようになりました。長野県内では、既に多くの地域で航空レーザ測量が実施されており、これらを用いて県内の民有林全域のCS立体図を作製しました。作製したCS立体図は、森林政策課森林計画係により長野県情報資産として管理されており、森林整備が目的であれば誰でも入手することができます。



CS立体図による湧水の判読

詳しくは、

- ・ <http://www.pref.nagano.lg.jp/ringyosogo/seika/kenkyu/documents/30-2-toda.pdf>
- ・ <http://www.pref.nagano.lg.jp/ringyosogo/seika/documents/bichikei.pdf>
- ・ [https://www.jstage.jst.go.jp/article/sabo/65/2/65\\_51/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/sabo/65/2/65_51/_pdf)
- ・ <http://www.pref.nagano.lg.jp/rinsei/sangyo/ringyo/seibi/shisan.html>
- ・ <http://www.rincon.or.jp/sinrinseibikasokukaringyosaiseikyogikai/index.html>

担当者 育林部 戸田堅一郎